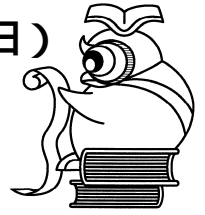


# ぱびるす

聖学院大学総合図書館

第37号 (2003年9月16日)

発行・編集 聖学院大学総合図書館  
〒362 8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号  
電話 048 725 5461 FAX 048 780 1096  
E-mail : lib@seigakuin-univ.ac.jp  
URL : http://www.seigakuin-univ.ac.jp/scr/lib.asp



## 特集：ホームページのここがウリ！

### ホームページから広がる図書館利用

本学図書館の蔵書がインターネットでいつでも検索できます。

利用できるデータベースの一覧表です。

リクエストや資料貸借文献検索依頼等のオンライン申込みができます。

図書館からのお知らせです。

図書館の便利な使い方について解説したシリーズです。

日にちにカーソルをあわせると開館時間がチェックできます。

国立国会図書館の蔵書や雑誌記事検索ができます。

国立情報学研究所電子図書館サービス 学術雑誌のページが画像データとして蓄積されています。

人文・社会・自然など学術雑誌(洋文献)を収録したデータベースです。

電子図書館(情報検索)

- 資料の所在を調べる(図書館・資料館)
  - ◎聖学院大学図書館蔵書検索
  - ◎WebCAT(他大学図書館の蔵書検索)
  - ◎国立国会図書館
  - ◎世界の図書館
- 文献・情報を調べる
  - ◎PubMed
  - ◎日本子ども家庭総合研究所
  - ◎NACSIS-IR(学内からのみ利用可能)
  - ◎Mergent Company Data & International Company Data(学内からのみ利用可能)
  - ◎日経テレコン21(代行検索のみ)
- オンライン・ジャーナル
  - ◎NACSIS-ELS(学内からのみ利用可能)
  - ◎Academic Search Elite(EBSCOhost)  
(学内からのみ利用可能)  
(本学関係者が学外から利用する場合にはこちら)
- 新聞
- 官公庁
- 白書類
- 地域情報
- インターネット辞典
- サーチエンジン

図書館情報

- 利用案内
  - ◎利用案内(学内者)
  - ◎利用案内(卒業生・学外者)
- サービス内容
  - ◎オンライン・サービス(学内者のみ)  
文献複写・貸借・紹介状・オリエンテーション・リクエスト申込
  - ◎データベース一覧
  - ◎雑誌一覧
  - ◎推薦図書
  - ◎ビデオ資料一覧
  - ◎主なマイクロ資料一覧
- 概要
  - ◎フロア案内
  - ◎概要・統計
  - ◎コレクション
- 出版物
  - ◎聖学院大学論叢(紀要)
  - ◎聖学院大学研究叢書(目次)
  - ◎館報「ぱびるす」
  - ◎図書館利用法シリーズ
- データベース利用マニュアル
- 展示

URL : http://www.seigakuin-univ.ac.jp/scr/lib.asp

この画面へは大学のホームページからもアクセスできます。

## ホームページから始まる IT 学習

聖学院ホームページは小さな変更などを除くと、3代目となります。毎回、利用者の方々にご満足いただけるように心がけて作成しています。どうぞ、皆さんの大学での生活に有効に活用してください。

聖学院大学ホームページは、単なる情報提供だけではなく、教員と学生をつなぐ架け橋の役割も担っています。そのひとつにオンラインレポート提出システムがあります。通常のレポート提出の場合、学生側はレポートをプリントアウトして、左上をホチキスで止め、授業の場で教員に提出しなければなりません。また教員の方も何百ものレポートを紙で回収するという重労働がまっています。その点、オンラインレポート提出システムはとっても便利です。教員がレポート課題を Web 上から登録し、学生がレポートをサーバーへ送信する。あとは教員が集まったレポートをダウンロードすればよいのです。

プリントアウトや回収の手間も、重い紙を運ぶ必要もありません。場所や資源、そして手間もかからないこのシステムは大変好評をいただいております。

もうひとつ、学生と教員をつなぐ架け橋として、「談話室」というページがあります。

いわゆる掲示板ですが、教員が個々に掲示板を持つことで、学生とのより深いコミュニケーションが可能で、授業のフォローアップにも役立ちますし、メールでの一対一のやり取りとは異なり、一人の学生が意見することに、他の学生、教員が返答でき、ひとつのテーマをともに学ぶことが可能となっています。

どちらのシステムも、最終的には利用される方々の「IT を利用してより良い大学生活を！」といった意識とマナーで成り立っています。どうぞ、これからも高い意識とマナーをもって、大学ホームページに参加してください。

今後も大学に関わる皆さんの生活がより充実したものとなりますように、聖学院大学ホームページは進化を続けます。

(情報システム課 長澤悠子)

## ホームページは夢実現の入り口です

キャリアサポートセンターはあなたの夢の実現を応援します。当センターのホームページには夢を見つけること、それを育てる方法のヒントが満載です。特にお勧めは「キャリアサポートセンタープライベートページ」。ここでは大学宛に届いた求人票の検索(幼稚園・保育園、福祉施設・病院等条件指定でも検索可)、先輩たちの就職活動報告では具体的に出题された試験・面接の内容、活動の時期、後輩へのメッセージが閲覧できます。さらに絶就研の連絡掲示板(絶就研とは4年生が3年生を応援するチームの通称)では先輩や職員に悩みを相談したり、仲間同士の連絡もできます。ホームページを見た皆さんがキャリアサポートセンターに来てくれることを待っています。

(キャリアサポートセンター 藤原三千代)

### \*私のPC体験(1)\* 『偏見からの解脱』

100W069 土屋 道生

学生としてのしごく基本的な活動として、数々の体験や活動(もちろん学内で講義を受けることも含む)を通して情報を取り入れ、自らの考え方や生き方を変えてゆくというものがある。私は、この大学の教育活動の一つであるパソコン(以下PCと略す)教育を通して、変わったと思う。では、どこがどのように変わったのか。

私は、この大学に入りPC教育を受けるまでは本当にPCに対して無知であった。そればかりか、多少の偏見を持ってPCとPCに通じている人を見ていた。(しかし、それは仕方のない事であると思う。人は、何でも自分に無い概念、観念を見るとき、過大な妄想を生みやすいものである。)PCは人から感情を奪い、そしてPCに通じている人は皆、神経質のためにやせていて青白く、もやしのような人たちだと思っていた。そして、インドのヒンドゥー教徒が聖なる河ガンジス川を目指し、イスラム教徒が聖地メッカを目指すごとくに、週末になるごとに、うつろな目をして秋葉原に繰り出すものかと思っていた。しかし、それがいかに偏見に満ちたものであったか、PC教育を受け、自分自身がPCの世界(概念、観念なるもの)に入ることによって分かった。

ここまで読み、実に下らない内容である、と思われる方もいるかもしれない。しかし、偏見がなくなる、ということは大変重要なことではないだろうか。何でも、その世界、その概念、観念を自らの中に受け入れるまでが大変なのである。受け入れ、拒否反応さえなくなれば、その後の吸収は早い。私は、この大学のPC教育でPCに対し拒否反応がなくなったばかりか、今ではPCのない生活は考えられない。ここまで私は変わったのである。

\*私のPC体験(2)\*

### 『ライブラリー・アシスタント』

102A046 齊藤 比奈

この春学期から、聖学院大学の図書館でライブラリー・アシスタント(PC担当)をさせていただきました。私は、大学に入学するまであまりパソコンを使ったことがありませんでした。また、パソコンの知識についても、大学で教わるまでほとんど知りませんでした。だから、アシスタントが本当に自分に勤まるのか、不安でいっぱいでした。

アシスタントの主な仕事内容は、図書館の4階でノートパソコンの貸し出し・管理をすることです。貸し出しが始まった5月は、それほど多くの貸し出しはありませんでした。しかし、6月に入るとレポートを作成するために、毎日、50人を超える学生がパソコンを借りに来ました。休み時間も、放課後もパソコン利用者でいっぱいになりました。

図書館でパソコンの貸し出しを始めるまでは、学内に学生が自由に使用できるパソコンは少なかったように思います。授業の空き時間や放課後に、学校でパソコンを使用できるのはとても便利だと感じました。また、多くの学生が私と同じような意見を持っているからこそ、利用者がたくさんいるのだと思います。

夏休みがあげると、秋学期の貸し出しが始まります。春学期は図書館職員の方々にご指導をいただいて、なんとか勤めることができました。私自身が、もっとパソコンについての知識を深めたいと思います。そして、もっと学生の間浸透していけたらと思います。

## 図書館サービスのデジタル化

大学が発信するホームページ1つを見ても、その機能は様々で、多くの人に活用されています。現在、コンピュータは私たちにとって身近なものとなりました。そのきっかけとなったのが1995年のWindows95発売です。しかしそれ以前から図書館界にはコンピュータ化の流れがありました。

1992年頃からアメリカを中心に電子ジャーナルの発行が開始され、図書館将来像として「電子図書館」が注目されたことなどです。

では今の図書館はどこまでデジタル化されたのでしょうか。図書館にはご存知のとおり、図書や雑誌の紙媒体の資料がたくさんあります。旧来の図書館から引き継いだ大切な財産です。そして最近増えてきたものとして、DVDなどのデジタル化された視聴覚資料、オンラインやCD-ROMによるデータベース、そしてそれらを使う環境としてのコンピュータがあります。将来、図書館はこれらの紙媒体資料と、デジタル資料とを使いこなすことのできる環境とノウハウを提供していく場になることが求められているといわれています。

さて、そこで本学図書館の様子を見てみましょう。図書館には約21万冊の図書資料と、622誌の雑誌があります。これが主な紙媒体資料です。デジタル資料としては、DVDやCD-ROMの視聴覚資料やデータを購入しています。あわせてその資料を利用できる機器の設置も進めています。また有料データベースや電子ジャーナルと契約を結び、提供を行っています。

そしてこれらの資料を使いながらレポートが書ける環境として、検索性PC25台(内ノートPC20台)を導入して提供しています。

このように図書館では、これまでの資料提供とともに、デジタル化に対応したサービスの展開も行っています。紙媒体とデジタル情報とを融合してサービス提供ができるハイブリッド図書館を目指し、活動していきます。ぜひこれらのサービスを知り、図書館を有効利用していただきたいと思っています。(M.K.)

## インターネット検索で知っておきたい事

### 1. その情報は確かですか？

単なるコンピュータネットワークとしてだけではなく、巨大な情報メディアとして成長を続けるインターネット。皆さんも、レポートや論文を作成する際にインターネットを活用している事でしょう。

しかし、インターネットを利用して情報を収集する際には、いくつか気をつけなければならない事があります。その一つが、インターネットを通して集めた情報が「正確か」という事です。

インターネットは誰もが簡単に情報を発信する事ができます。(だからこそ多種多様の情報が行き交っています。)しかし、それは「不正確な情報も簡単に発信できる」という事も意味しています。

パロディや冗談といったものから、記憶違いや勘違い、思い込み、さらに明確な悪意を持って発信されるものまで、不正確な情報が発信される原因は多岐にわたりますが、インターネットではそれらの不正確な情報が他のメディア以上に簡単に、そして広範囲に広がりがちです。(殺人事件の加害者としてネット上に広く流出した少年の写真が、実は全くの他人であった事は、記憶に新しいところです。)

皆さんがインターネットで情報を集める時は、その収集した情報の「正確さ」がどの程度のものかを必ず見極めるようにしましょう。

### 2. どこを参照しましたか？

人が創作した著作物は著作権によって保護されます。それはインターネット上の情報も例外ではありません。

インターネットに限らず、何らかの著作物を勝手に利用する事は許されません。著作権法上「自由に使える」特別な場合を除き、著作権者に許諾を得なければなりません。

著作権法上、「自由利用が可能」なもの一つに、「引用」があります。しかし、この「引用」を行う場合、必ず元の情報源を明示する必要があります。

インターネット情報は「コピー&貼り付け」が

容易に行えるためか、引用元を明らかにしないままレポートや論文に情報が引用されているケースが図書や雑誌情報以上に多く見られます。

このような場合、引用ではなく、「盗用」と見なされます。「盗用」は試験におけるカンニングと同等の不正行為と見なされますから、該当単位が取得できない事もあり得ます。

インターネットで集めた情報を用いてレポートや論文を作成する際には、必ず図書や雑誌と同じように引用・参考元としてその情報源を明示しましょう。(H.N.)

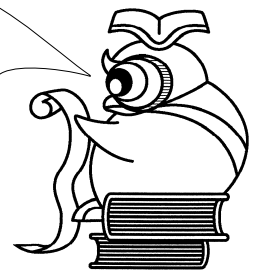
### 聖学院大学総合図書館

#### イメージキャラクター決定！

たくさんの応募、ありがとうございました。どれも素晴らしい作品でしたが、本学図書館のイメージにふさわしく、また親しみやすいキャラクターということで、図書委員の先生方と図書館員で審査した結果、以下のように入選者が決まりました。図書館の広報活動に幅広く活躍する予定です。

最優秀賞：ビュー 101W508 宮田宗一郎さん  
(グラフィック化)(原案：近藤存志先生)  
入選：パムルム 103W105 皆川幸一郎さん  
入選：ピーチャン 102J071 谷本 洋一さん

私の名前はビューです。  
鋭い目で世界の出来事を見て考える。  
あなたも図書館で  
たくさんの情報を  
Get & View!



### 編集後記

今年5月6日より月曜日から金曜日の9時 18時半、図書館4階PC優先席でノートPCの貸し出しを始めました。春学期の終了までの52日間にこのノートPCを利用した人の数は総計1490名、1日平均29名でした。多い日には76名の人が使用しています。最初の日が4名であったのから比べると図書館の中でも人気のスポットに成長したと言えます。これからもIT学習のサポートにも強い図書館でありたいと願っています。(Y.I.)